

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500060		
法人名	株式会社 下平		
事業所名	さくら悠輪苑		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町四郷字新開288番地		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月23日	評価結果市町村受理日	令和3年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&ji.gyosyoQd=2192500060-00&ServiceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和3年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事面では、業者を使うことなく買い物から行っている。全て職員が行うのではなく利用者と一緒に作っているのは強みの一つだと思う。もちろん、盛り付けや後片付けなども。料理を担当する職員は、79歳と76歳で地域住民の方が頑張ってくれていて、人生の大先輩として働く大切さを行動で示してくださっており、職員や利用者の心のよりどころになっている。率先して高齢者雇用を進めていき社会貢献にも繋がっている。昨年から本格的に認知症共用型デイサービスを行っていて、1日6人の方が利用していて地域の認知症介護を支える1つとなっている。入所の利用者にも良い刺激となっており施設に活気が出てきた。デイ利用者のほとんどが入所待ちの方で、空きが出来たらそのまま慣れた施設に入所出来るため、ご家族からも大変好評をいただいている。施設長が輪之内町、安八町の認知症地域支援推進員を行っていて地域の認知症ケアの拠点になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは大規模商業施設の裏手に隣接しており、いつでも利用者と一緒に、その日の食材の買い物に行ける等、生活の利便性に恵まれた場所に位置している。ホームでは、利用者のエンパワメントを高める観点から、利用者にも献立作りや調理に参加してもらう等、冷蔵庫の中にある食材から献立を考える日を設けている。利用者一人ひとりの個性や心身状況に応じて、日頃から調理の準備や後片付け等にも役割を持っていただく等、日常生活の営みに共に参加してもらう機会づくりを通じて、家庭生活を延長した雰囲気の中で、利用者の方それぞれの潜在能力や本当にやりたい事が引き出され、活性化につながっている。このような利用者の人格やライフスタイルを尊重した運営がなされているのは認知症対応を深く理解し、認知症地域支援推進員でもある管理者の経験や指導力が大きく反映されていると感じられる。家族とはメール等を活用した親密なやりとりにより、信頼や期待を寄せられていることが窺える。また、運営推進会議をはじめとした地域連携の推進、ここ数年での共生型認知症デイサービスの開設や、共用スペースを活用した認知症カフェの定期開催を行う等、地域の認知症介護の拠点施設としての意義を高めるべく積極的に活動している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。□ □	法人の理念に基づき、2年前に事業所独自の理念「小さなことに目を向け、小さな声に耳を傾け、それが入居者でも職員でも」を掲げている。玄関や目の付きやすい手洗い場の鏡の間等に掲示することで、職員の共通理解を図り、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お祭り、ふれあいフェスタ、三世代交流会などに参加させてもらっている。町主催の認知症カフェに出向き、利用者がウエイトレスとしてお茶出しをして、認知症の理解を深めていただけているようにしてる。	自治会に加入しており、日頃の近隣散策の際に、地域の方々と挨拶を交わす等している。また、地域のイベントの参加等を通じて地域交流を行っている。現在は、コロナ禍の影響で制限的にならざるを得ない状況にある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、介護相談会を安八温泉で行っている。施設内において第1、3土曜日に互近助カフェ(認知症カフェ)、第一木曜日には手芸教室、第四金曜日には絵手紙教室を行い地域の方にも参加していただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の開催となっている。毎回、輪之内町福祉課、地域包括、社協、区長、民生委員、ご家族代表と参加していただき、さまざまな意見を頂いています。	会議には行政や地域団体の役員に毎回参加していただき、ホームの入居状況や取組みの報告に加え、認知症地域支援推進員としての活動も報告している。会議では幅広く意見交換が行われており、グループホームや認知症の理解が深まる機会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政と密に連絡を取り合い、空き状況や活動報告など伝えている。	行政とは運営推進会議に加え、認知症地域支援推進員の活動においても繋がりが深い。また、法改正や補助金などの情報について気軽に問い合わせができる関係にある。地域の認知症困難事例について相談を受け、事業所で関わりを持ち、利用に繋がったケースもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しているが早朝からは解除し日中施錠をすることはない。身体面では身体拘束マニュアルを職員は理解し行っている。理解を深める為、研修会も実施。	身体拘束について、年に1～2回、ミーティングの機会を活用した研修会を開催している。スピーチロックについても日常的な支援の場面を通して共通理解を図っている。利用者が外に出たい場合は、思いを傾聴し、気持ちを受容したり、一緒に出かけたりする等して対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや施設内研修で学びを深めている。管理者は権利擁護推進員の研修を修了済みである。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度権利擁護についての研修会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明させていただいている。疑問や不安等があればその都度、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族がいつでも管理者や職員と本音で話ができる様な関係作りができています。11月には介護の日にちなんだ家族会を開催。認知症ケア家族の理解と関わりをテーマに研修会も行った。	面会時に声かけをしたり、家族への連絡の際には電話に加え、SNSやメール等も活用しながら、意見や要望を出しやすいよう工夫している。利用者からの食事リクエストは早めに献立に盛り込む等して提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、またはその都度、職員からの声に耳を傾けるよう努めている。	年に2回、職員との面談機会を設けるとともに、職員用の意見箱も設置し、意見把握に努めている。管理者は職員の意見を汲み上げ、法人代表に届けており、事業所の業務改善や働きやすい職場づくりに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員が、より働きやすい職場環境がつかれるように努めています。処遇改善手当てが年2回の分配だったのを月々分配に変更し目に見える実績として職員に理解してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を外部に依頼。初任者研修、実務者研修などの研修費は法人が出し、正社員は出勤扱い、パートは有給で研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での交流だけでなく、年2回安八郡グループホーム会を開催し、郡内6つの施設と交流を深めている。SNSでグループチャットを作り空き情報などのやり取りを行っていて非常に助かっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が思っていることが話せる穏やかで落ち着いた環境作りが出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さいことでも家族の要望が出来る限り受け入れる体制が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か職員間で連携をとり本人が安心して過ごせるためのサービス提供に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員と考え、喜怒哀楽が共に共有できる関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の相互の背景をくみ取り良好な関係作りが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で外出支援(馴染みの喫茶店、美容室)を行っている。	入居時に利用者の大切な馴染みの人や場等の大切なつながりについて把握している。コロナ禍の状況にあるので現在は控えているが、地域の商店や喫茶店等に外出し、馴染みの友人や仲間たちに会う等、関係継続の支援に努めている。また感染防止に努めつつ、玄関先での面会ができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の性格、状態を把握し、お互い関わりがもてるような場面作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	研修先での交流だけでなく、年2回安八郡グループホーム会を開催し、郡内6つの施設と交流を深めている。SNSでグループチャットを作り空き情報などのやり取りを行っていて非常に助かっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望を聞き、困難な場合はチームで情報交換し本人にとって一番良いと思われる考えを選択している。	利用者尊重の立場から非言語的コミュニケーションも交えて本人の意向把握に努め、本人の希望に沿えるよう工夫している。例えば、食事においては、形態をペースト状から極刻みトロミがけに変更したり、嚥下の状態に応じてスプーンの大小を使い分けたりする等、カロリー摂取量だけに目を向けず、楽しく食べられるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中や、家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームで情報を共有し、介護記録を活用し日々の変化に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、意見を記入してもらいそれをもとに会議を行っている。改善策があれば実践に繋がられるように周知している。	面会時に意見を聞く等して家族の意向を踏まえ、主治医等の専門職の意見を聞き、ケアマネージャーや職員間で話し合い、介護計画の作成を行なっている。モニタリングを毎月実施し、計画は定期的に見直しを行っているが、利用者の状況に応じて、随時見直しをしている。見直し後の計画はカルテに添付し、申し送り等で周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ、様子、状況が分かるように記入してもらえるようにしているが、なかなか記入出来ていない事もある。連絡ノートに記入し、徹底出来るように呼びかけする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設に入所中の御姉妹に面会に行くなど柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々とふれあいや地域行事にできるだけ参加をし、楽しみを増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に往診を受けている。ご本人、御家族の希望があれば、今まで通院していた医療機関を利用している。	希望する協力医の往診を受けている。従来の医療機関を受診する場合には、家族同行で受診してもらっている。受診時の情報は口頭や連絡ノート、申し送りで職員間で共有している。事業所には看護師3名が配置され、利用者の体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排便、バイタル等すべてにおいていつもと違うと感じたら、看護師に相談して連携がとれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当ナースと連絡のやり取りやご家族の方とのやり取りが出来ている。家族さんの希望、意向を出来るだけ汲み取り、安心して施設に戻れるように行っている。主治医にも相談・情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明させていただいている。主治医の診断によりターミナル期に入った時は、主治医、ご家族、職員で話し合い家族の意向に沿えるようにしている。また、定期的にご家族に状況説明させていただいている。	入居時、看取りに関する方針を説明し、同意を得ている。医療機関と連携し、看取りを行う段階において再度説明を行い、できる限り家族の思いに寄り添う対応をしている。終末期には、希望により畳の部屋で家族と共に過ごしていただくよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度外部に委託し研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月に避難訓練を行っている。9月末に夜間想定避難訓練を実施予定	年2回、定期的に昼夜想定のもと避難訓練を実施している。緊急時マニュアルや連絡網等の手順を作成し、災害時の具体的な対応等も検討している。備蓄は5日分の飲食料を常備している。	昨今の異常気象から、今後、様々な災害発生が想定される。その対策において、運営推進会議などで協議し、地域とのより強力な協力体制の構築に向けた取り組みに期待したい。また、非常食の賞味期限切れ対策をする等、備蓄を効率的に活用する方法を検討されたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や、その時の状況に配慮し、その人にあった言葉掛けを心がけている。	利用者一人ひとりの尊厳を尊重する観点から、声かけの方法についてミーティングで話し合い、振り返りをしている。利用者の生活歴、個性、価値感等を把握し、その人に合わせた支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が決めれるよう個別対応で選択肢を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、利用者一人一人に寄り添うことを第一に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、整容、散髪など、その人がその人らしくあり続けれるよう、個別対応が出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	保有能力を活かし、調理、盛り付け、洗い物等、関わる事が出来ている。	食材の買い出しや食事の準備、調理、片付けまで利用者と一緒に行い、冷蔵庫の食材から献立を考える日を設ける等、その日のメニューと一緒に考えて、季節を感じられる食事づくりに努めるとともに、食事が楽しみなものになるような環境づくりに心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間で情報共有し介護記録を書くことで確認出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に歯磨きや口腔スポンジを用いてケアをし、清潔が維持出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録により、理解し、トイレ誘導する事で、パットの使用量など減らし清潔を心がけている。	排泄チェック表を活用し、利用者それぞれのペースに応じて、トイレ誘導を行っている。また、本人の身体状況に合わせた様々なオムツやパットの種類を利用して調整している。日中はリハビリパンツの方が多く、夜間はポータブルトイレを使用してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排便リズム、便の形状等を把握し、牛乳を提供したり散歩にお誘いするなど努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後とご本人が希望する時間に合わせて入浴が出来ている。	個浴と機械浴があり、本人の希望に応じて週2～3回の入浴を行っている。安全安楽に入浴支援ができるよう職員の配置数を工夫している。入浴剤を使用する等、利用者が入浴を楽しめるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間等も各々のペースに合わせて入眠時も室温に気を配り、安眠、休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を薬情などで理解している。用法も支持に沿った方法で行っている。体調確認により服薬の症状など注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を考慮し、地域の行事への参加、昔馴染みの方々との交流など楽しい時間を持ていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出が難しくなっているが、ドライブするなど、現在できる範囲での支援を行っている。	コロナ禍の影響で外出の機会を制限せざるを得ない状況にあるが、車を使用し、薔薇園に行ったり、食材の買い出しに一緒に出かけたり、隣接する商業施設に買い物に行く等、利用者の希望に応じて外出支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身がお金を使う支援はなかなか出ていない。考慮していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが掛けて、利用者が家族と電話する事はあるが利用者自ら電話や手紙を出す事はできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる展示物をしたり快適な室温を維持するなど、明るい空間作りを行っている。	リビングは、テーブルやソファが設置され、テレビを見てくつろいだり、利用者自らタオルたたみをする等、自由に過ごすことができる空間となっている。季節の花や利用者の作品が随所に飾られており、居心地良く過ごせるよう工夫している。利用者それぞれが思い思いに談笑する等、ゆったりとした雰囲気が感じ取れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者により、共用空間内でも、居心地の良い場所がある為、気の合った利用者同士が過ごせるよう席等を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家族が用意した物を中心に利用者が居心地よくなるよう、飾りをしたりと工夫している。	馴染みの雑貨や小物などが持ち込まれており、ベッドや家財の配置も安全性を考慮した工夫がなされている。また、家族写真や本人の作品、好きな花や装飾品等が飾られ、個性が感じられる空間になっている。全居室に室温計が設置されており、空調の調整にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部のトイレなど場所を表示したり、調理が出来るよう、IHコンロを使用し自席で利用者、スタッフ共に行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500060		
法人名	株式会社 下平		
事業所名	さくら悠輪苑		
所在地	岐阜県安八郡輪之内町四郷字新開288番地		
自己評価作成日	令和 3 年 8 月23日	評価結果市町村受理日	令和3年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ji_gyosyoQd=2192500060-00&ServiceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和3年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事面では、業者を使うことなく買い物から行っている。全て職員が行うのではなく利用者と一緒に作っているのは強みの一つだと思う。もちろん、盛り付けや後片付けなども。料理を担当する職員は、79歳と76歳で地域住民の方が頑張ってくれていて、人生の大先輩として働く大切さを行動で示してくださっており、職員や利用者の心のよりどころになっている。率先して高齢者雇用を進めていき社会貢献にも繋がっている。昨年から本格的に認知症共用型デイサービスを行っていて、1日6人の方が利用していて地域の認知症介護を支える1つとなっている。入所の利用者にも良い刺激となっており施設に活気が出てきた。デイ利用者のほとんどが入所待ちの方々と、空きが出来たらそのまま慣れた施設に入所出来るため、ご家族から大変好評をいただいている。施設長が輪之内町、安八町の認知症地域支援推進員を行っていて地域の認知症ケアの拠点になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、理念を念頭に、職員が同じ方向性を持ちながら、共有し実践できるように繋げている。□ □		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お祭り、ふれあいフェスタ、三世代交流会などに参加させてもらっている。町主催の認知症カフェに出向き、利用者がウエイトレスとしてお茶出しをして、認知症の理解を深めていただけるようにしてる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、介護相談会を安八温泉で行っている。施設内において第1、3土曜日に互近助カフェ（認知症カフェ）、第一木曜日には手芸教室、第四金曜日には絵手紙教室を行い地域の方にも参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の開催となっている。毎回、輪之内町福祉課、地域包括、社協、区長、民生委員、ご家族代表と参加していただき、さまざまな意見を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政と密に連絡を取り合い、空き状況や活動報告など伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ防犯と利用者様の安全上やむえず施錠しているが早朝からは解除し日中施錠をすることはない。身体面では身体拘束マニュアルを職員は理解し行えている。理解を深める為、研修会も実施。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや施設内研修で学びを深めている。管理者は権利擁護推進員の研修を修了済みである。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度権利擁護についての研修会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明させていただいている。疑問や不安等があればその都度、対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族がいつでも管理者や職員と本音で話ができる様な関係作りができています。11月には介護の日にちなんで家族会を開催。認知症ケア家族の理解と関わりをテーマに研修会も行った。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、またはその都度、職員からの声に耳を傾けるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員が、より働きやすい職場環境がつかれるように努めています。処遇改善手当が年2回の分配だったのを月々分配に変更し目に見える実績として職員に理解してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を外部に依頼。初任者研修、実務者研修などの研修費は法人が出し、正社員は出勤扱い、パートは有給で研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先での交流だけでなく、年2回安八郡グループホーム会を開催し、郡内6つの施設と交流を深めている。SNSでグループチャットを作り空き情報などのやり取りを行っていて非常に助かっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が思っていることが話せる穏やかで落ち着いた環境作りが出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さいことでも家族の要望が出来る限り受け入れる体制が出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か職員間で連携をとり本人が安心して過ごせるためのサービス提供に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員と考え、喜怒哀楽が共に共有できる関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の相互の背景をくみ取り良好な関係作りが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で外出支援(馴染みの喫茶店、美容室)を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人1人の性格、状態を把握し、お互い関わりがもてるような場面作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	研修先での交流だけでなく、年2回安八郡グループホーム会を開催し、郡内6つの施設と交流を深めている。SNSでグループチャットを作り空き情報などのやり取りを行っていて非常に助かっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望を聞き、困難な場合はチームで情報交換し本人にとって一番良いと思われる考えを選択している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中や、家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームで情報を共有し、介護記録を活用し日々の変化に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、意見を記入してもらいそれをもとに会議を行っている。改善策があれば実践に繋がられるように周知している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ、様子、状況が分かるように記入してもらえようとしているが、なかなか記入出来ていない事もある。連絡ノートに記入し、徹底出来るように呼びかけする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他施設に入所中の御姉妹に面会に行くなど柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々とふれあいや地域行事にできるだけ参加をし、楽しみを増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に往診を受けている。ご本人、御家族の希望があれば、今まで通院していた医療機関を利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排便、バイタル等すべてにおいていつもと違うと感じたら、看護師に相談して連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当ナースと連絡のやり取りやご家族の方とのやり取りが出来る。家族さんの希望、意向を出来るだけ汲み取り、安心して施設に戻れるように行っている。主治医にも相談・情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明させていただいている。主治医の診断によりターミナル期に入った時は、主治医、ご家族、職員で話し合い家族の意向に沿えるようにしている。また、定期的にご家族に状況説明させていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度外部に委託し研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月に避難訓練を行っている。9月末に夜間想定避難訓練を実施予定		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や、その時の状況に配慮し、その人にあつた言葉掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が決めれるよう個別対応で選択肢を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、利用者一人一人に寄り添うことを第一に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、整容、散髪など、その人がその人らしくあり続けれるよう、個別対応が出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	保有能力を活かし、調理、盛り付け、洗い物等、関わる事が出来ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間で情報共有し介護記録を書くことで確認出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に歯磨きや口腔スポンジを用いてケアをし、清潔が維持出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録により、理解し、トイレ誘導する事で、パットの使用量など減らし清潔を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々の排便リズム、便の形状等を把握し、牛乳を提供したり散歩にお誘いするなど努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後とご本人が希望する時間に合わせて入浴が出来る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間等も各々のペースに合わせて入眠時も室温に気を配り、安眠、休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的を薬情などで理解している。用法も支持に沿った方法で行っている。体調確認により服薬の症状など注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を考慮し、地域の行事への参加、昔馴染みの方々との交流など楽しい時間を持っていたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出が難しくなっているが、ドライブするなど、現在できる範囲での支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身がお金を使う支援はなかなか出来ていない。考慮していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフが掛けて、利用者が家族と電話する事はあるが利用者自ら電話や手紙を出す事はできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じる展示物をしたり快適な室温を維持するなど、明るい空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者により、共用空間内でも、居心地の良い場所がある為、気の合った利用者同士が過ごせるよう席等を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は家族が用意した物を中心に利用者が居心地よくなるよう、飾りをしたりと工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部のトイレなど場所を表示したり、調理が出来るよう、IHコンロを使用し自席で利用者、スタッフ共に行っている。		